

岡山県金融経済動向

1. 概況

- 県内景気は、回復を続けている。
- すなわち、最終需要面をみると、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。住宅投資も振れを伴いながら堅調に推移している。一方、公共投資は基調としては低調に推移している。
- 県内主要製造業の生産活動は、内外需要が堅調に推移する中、振れを伴いつつも緩やかな増加傾向にある。
雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は基調としては緩やかな増加傾向にある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

- 個人消費をみると、底堅く推移している。
すなわち、6月の販売動向をみると、百貨店売上高は、婦人服を中心に衣料品が苦戦したものの、身の回り品が引続き好調に推移したほか、中元商戦が好調な食料品も堅調な伸びを示したため、2か月振りに前年を上回った。家電販売も、大型・薄型テレビが買い替え需要を中心に好調であったほか、新型機種投入等もあってパソコンやエアコンの販売が持ち直したため、2か月振りに前年を上回った。
一方、スーパー売上高は、衣料品が底堅く推移したほか、食料品でも中元品を中心に持ち直しの動きがみられたものの、生活用品で昨年の一部品目の値上げに伴う駆け込み需要がみられた反動があったため、前年を下回った。また、乗用車販売では、普通車、小型車を中心に販売が引続き低調なため、全体では7か月連続で前年を下回った。このほか、旅行取扱高は、国内旅行・海外旅行ともに団体旅行が不振であったため、3か月振りに前年を下回った。
この間、主要観光地への入り込みをみると、デスティネーションキャンペーンの効果などもあって、多くの施設で前年を上回った。

(2) 設備投資

- 県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、19年度の設備投資計画（6月短観調査）をみると、非製造業では小売、建設、リース等を中心に小幅の減少計画にある（前年比▲1.6%）が、製造業では、化学（競争力強化、能力増強）、石油・石炭製品、輸送用機械（能力増強）、木材・木製品（効率化）を中心に増加計画となっている（同+11.0%）。この結果、全産業ベースでも増加計画となっている（同+6.4%）。

なお、前回調査（3月調査）と比較すると、電気機械、輸送機械、一般機械等の製造業を中心に上方修正されている。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積（非居住用）は、足もとでは前年を上回っている（前年比：19/1～3月▲16.5%→4～5月+37.0%）。

(3) 住宅投資

- 最近の県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、月々の振れを伴いながら堅調に推移している。すなわち、利用関係別にみると、持家は一次取得者を中心に堅調に推移しているほか、貸家、マンションも月々の振れはあるものの、堅調に推移している。

(4) 公共投資

- 公共投資は、基調としては低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、6月は「国」、「県」、「その他の公共的団体」が、新年度工事の前倒しなどから、前年を上回ったものの、昨年的大型工事の反動もあって、「独立行政法人等」、「市町村」が前年を下回ったことから、全体では2か月連続して前年を下回った（前年比：5月▲16.3%→6月▲7.3%）。

(5) 輸 出

- 輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、アジア向けが鉄鋼、化学を中心に堅調に推移しているほか、西欧、中東欧、ロシア、北米向けも自動車（完成車）を中心に高い伸びを続けている。

(6) 生産・出荷・在庫

- 5月の県内鉱工業生産指数（直近計数）の前年比は、輸送用機械、一般機械、鉄鋼で上昇したものの、定期修理を行った化学や石油の低下を反映して、全体では3か月振りに低下した（前年比：4月+2.3%→5月▲0.7%）。

季調済前月比では、化学、電気機械を中心に、全体では2か月連続で低下した（季調済前月比：4月▲1.4%→5月▲3.7%）。

この間、在庫指数は、輸送用機械、石油を中心に、12か月連続で前年を上回った（前年比：4月+6.3%→5月+4.7%）。

- 県内主要製造業の最近の生産動向（10業種、付表参照）をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。鉄鋼、電気機械でも、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。石油精製も、6月には定期修理の影響が緩和され、生産水準を戻している。また、自動車は、国内向けは弱めの動きが続いているが、輸出向けが完成車を中心に好調なため、高水準の操業を続けている。このほか、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。農機具では、末端需要の低迷等から全体としては低調な生産を続けている。また、繊維でも、安価輸入品との競合や海外への生産シフト等から、全体として低水準にある。この間、石油化学は、定期修理を行っているため、生産水準は低下している。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い一部の先では、残業等による生産対応を続けている。

(7) 雇用・所得

- 労働需給面では、5月の所定外労働時間が高伸した前年並みとなった（前年比：4月▲0.2%→5月0.0%）ほか、6月の有効求人倍率は、高水準を続けている（5月1.46倍→6月1.43倍）。雇用面をみると、5月の常用労働者数は、退職者の増加分を補充できていないこと等から前年を若干下回った（前年比：4月▲0.8%→5月▲1.0%）が、雇用保険受給者数は前年を下回っており、解雇者数も低水準で推移している。このように、県内の雇用関連指標は足もとでは弱めの動きもみられるが、総じてみれば改善傾向にある。

賃金をみると、5月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回った（前年比：4月▲1.7%→5月▲0.6%）が、岡山県内民間企業の19年夏季賞与は若干増加した（前年比：18年冬季賞与▲0.34%→+1.73%、岡山県経営者協会調べ＜最終集計＞）。

この結果、雇用者所得は、足もとでは前年を下回ったものの、基調としては緩やかな増加傾向にある。

(8) 物 価

- 6月の岡山市消費者物価指数（平成17年基準、生鮮食品を除くベース）をみると、被服及び履物、教養娯楽などが前年を下回っているが、生鮮食品を除く食料、家具・家事用品、保健医療等が前年を上回っているため、全体では前年比プラスとなった（前年比：5月+0.2%→6月+0.4%）。

(9) 企業倒産

- 6月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数（11件<前年15件>）は前年を下回ったが、負債総額（37億円<同33億円>）は前年を上回った。

3. 金 融

(1) 実質預金

- 6月の県内実質預金をみると、公金預金は前年比マイナス幅が拡大しているものの、個人預金で団塊世代の退職金流入もあって前年比プラスが続いているほか、法人預金の前年比マイナス幅が縮小したことから、実質預金全体の伸び率は拡大した（月中平残前年比：5月+0.4%→6月+1.1%）。

(2) 貸 出

- 6月の県内貸出をみると、地公体向けが横ばいで推移する中、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移しているほか、企業向けも設備資金を中心に前年比プラスを維持している。このため、貸出全体の伸び率は前年を上回った（月中平残前年比：5月+2.0%→6月+2.0%）。

(3) 貸出約定平均金利

- 6月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、2か月振りに前月比上昇した。一方、ストック金利（同）は15か月連続で上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111 (代表)

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足 も と の 動 向
自動車	<p>国内向けの稼働率は低下しているが、輸出向けを中心に、全体としては高操業が続いている。</p> <p><u>国内向け生産</u>は、小型車が一部車種の他工場への生産移管により減少しているほか、軽自動車も、他社向け供給の効果は継続しているものの、販売台数減少から生産水準を低下させている。<u>輸出向け生産</u>は、完成車がロシア、中東向けを中心に堅調なほか、北米、欧州向けも新型車投入や他社向け供給の効果から増加している。このほか、KDも新車投入等から持ち直している。</p> <p>この間、新潟中越沖地震で部品メーカーが被災し、同メーカーからの部品供給がストップした。このため、7月下旬に一時的に操業停止を余儀なくされた先があり、生産台数も減少したが、足もとは操業を再開しており、生産ラインでは、残業、休日出勤による生産対応を続けている。</p>
造船	<p>高操業が続いている。</p> <p>大手先の造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業機械向け受注も堅調に推移しており、高操業を続けている。</p> <p>この間、生産現場では、残業による生産対応を続けている。</p>
石油精製	<p>定期修理の影響が緩和され、原油処理量は高めに復帰している。</p> <p>製品別にみると、<u>ナフサ</u>は石化メーカー向けが堅調に推移していることから、高めの生産水準となっている。<u>ガソリン</u>は需要が弱含んでいることもあって、生産水準がやや低下している。<u>軽油</u>は内需が底堅く推移しており、輸出向け需要が好調であるため、高めの生産水準となっている。<u>灯油</u>は需要が基調として弱含んでいる中、不需要期であることもあって、生産がやや落ち込んでいる。<u>重油</u>は、生産量が減少傾向にある。</p>
石油化学	<p>定期修理により、基礎原料のエチレンおよび多くの樹脂の生産量は減少している。</p> <p>製品別にみると、<u>ポリエチレン</u>、<u>塩ビ樹脂</u>は、需要は堅調に推移しているが、定期修理により生産水準が低下している。<u>ポリスチレン</u>は、汎用品の需要が弱含んでいるため、より高付加価値な製品へと生産をシフトさせているが、足もとの生産水準は定期修理によって若干低下している。</p>
鉄 鋼	<p>粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準にある。</p> <p>製品別の動向をみると、<u>薄板類</u>は、高付加価値品、汎用品ともに需要が好調であり、全体としては高水準の生産を続けている。<u>厚板類</u>は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。<u>形鋼類</u>は、定期修理により生産水準が若干低下しているが、民間建設向け需要が堅調なことから、全体としてはなお高めの生産となっている。<u>棒鋼類</u>は、自動車向けや、民間建設向けの需要が堅調なため、高めの生産を続けている。</p>
耐火物	<p>大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。</p> <p>大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。</p>
電気機械	<p>全体として、高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、<u>電子部品</u>は、液晶関連、携帯電話関連の受注が堅調なことから、全体としては高めの生産を続けている。<u>スイッチ</u>も、携帯電話関連を中心に受注が堅調なため、高操業を続けている。<u>デジタルビデオカメラ</u>は、新製品投入効果が一段落し、生産水準は低下している。</p>
織 維	<p>全体としては低水準の生産が続いている。</p> <p>製品別にみると、<u>綿織物</u>、<u>合繊織物</u>は、安価輸入品との競合等から、全体としては低水準の生産が続いている。また、<u>ジーンズ</u>、<u>作業服</u>は、海外生産シフトの影響等から、低水準の生産が続いている。<u>学生服</u>は、海外拠点への生産シフトにより生産量は減少傾向にある。</p>
工作機械	<p>高操業が続いている。</p> <p><u>NC旋盤</u>は、自動車関連メーカー向けを中心に、海外からの受注が堅調で、高操業を続けている。また、<u>MC（マシニングセンター）</u>も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。</p> <p>こうした状況下、生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。</p>
農 機 具	<p>全体としては低調な生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、<u>携帯用刈払機</u>は、欧州向けを中心とした海外需要が堅調に推移しているが、前倒し生産の終了等から、足もとは生産水準が低下している。また、<u>コンバイン</u>は、国内での末端需要が低調なほか、端境期にあるため在庫調整を継続しており、全体としては低水準の生産が続いている。</p>